NPO法人棚田ネットワーク会報誌　第84号

棚田に吹く風

9月号 2012
Vol.84
隔月刊

2 特集
究極の棚田オーナー制度
埼玉県横瀬町寺坂

5 フォトエッセイ
棚田の四季

6 棚田・里山からのたより
奥羽山脈、甑岳のふもとさ根っこはって
棚田を守る田んぼボーイズだべ!!
山形県村山市中沢棚田

8 « 田んぼに入る絵描き »の
棚田見聞録
棚カフェレシピ

9 棚田博士は今日も行く
集落営農に支えられる棚田
長野県小谷村伊折

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの
かつどうノート
スタッフのつぶやき

15 Project Report

特集

棚田博士 特別寄稿

究極の棚田オーナー制度

埼玉県横瀬町寺坂

文・写真　中島 峰広

全国の棚田オーナー制度は、そのほとんどが田植え、稲刈りだけを行う体験型。棚田の支援を目的に始まった制度ですが、現在各地で体験型オーナーを受け入れるための田作りや草刈り、水管理といった実作業が高齢化により困難になる地域が増えています。そんな現状に一石を投じる究極のオーナー制度を棚田博士が熱くレポートします！

都心から最も近い棚田

埼玉県横瀬町寺坂は都心から最も近い棚田である。秩父盆地の入口にあり、池袋から西武鉄道の「ちちぶ号」に乗れば、横瀬駅から歩いても1時間30分で寺坂に着く。ここには横瀬川の河岸段丘上に約5㌶、現在の耕作面積は4㌶、約250枚の棚田があり、2012年現在4名の地権者、26組の棚田オーナー、約50名の寺坂棚田学校の生徒によって耕作されている。

就農交流型の棚田オーナー制

棚田オーナー制は、都市農村交流の一つとして都市住民が過疎・高齢化の進む中山間の農村地域に出かけて行き、会費を払って棚田を賃借し、体験あるいは耕作を行い、全収穫物かあるいは保証された量の米を受け取る制度である。これにより、農村側は経済的・労力的な支援を受けることになり、棚田の保全に結びつく取り組みとして注目されている。

表1は、地域活性化の最も大きな要素と考えられるオーナーの来訪回数を指標にして私が類型化した5つのオーナー制度である。このなかで、横瀬町寺坂のオーナー制は来訪回数の最も多い就農・交流型のオーナー制度である。地元民の指導による都市住民の農業体験が主流であるオーナー制度のなかで、寺坂ではオーナー自身がすべての作業を行っており、他のオーナー制度と次元の違う内容から次世代型のオーナー制ともよばれている。

表1 棚田オーナー制の類型

類 型	来訪回数	面積(㎡)	会費(円)	保障(kg)
農業体験・交流型	3回未満	100	30,000	白米30
飯米確保・交流型	〃	500	90,000	玄米180
作業参加・交流型	4～9回	100	30,000	全収穫物
就 農 ・交流型	10回以上	100～1,000	30～3,500★	〃
保 全 ・交流型	来訪なし	なし	10,000	白米 5

注1 面積・会費・保証は平均的数字　　中島峰広作成
注2 ★は㎡当たり

究極の棚田オーナー制

寺坂のオーナー制は、オーナーが育苗から脱穀までの農作業はもちろんのこと、堰普請から日常の水管理にいたるまで、地元民にかわってすべての作業を行っており、作業のため年間30日寺坂を訪ねるというから究極のオーナー制ともいえる。表2は2011年度の寺坂棚田オーナー会の名簿である。表からわかるように、22組のオーナーはすべて近隣の都市住民である。地権者が耕作権を放棄しているため、㎡当たり30～40円の地代としての会費はオーナー会に払っている。オーナー会ではその金をプールして水路の改修費に充てることになっており、これまでに120万円が積み立てられているそうだ。㎡当たり30円として面積を計算すると、最も広い人が12・8アール、狭い人が1・4アールで合計118・6アールを耕作していることになる。

表2 寺坂棚田オーナー会名簿(2011年度)

オーナー	学校	住所	会費(円)	面積(a)	農機具代
A	○	飯能市	38,400	12.8	19,950
B	○	狭山市	16,200	5.4	3,700
C	○	鶴ヶ島市	20,500	6.8	18,650
D	○	川越市	15,800	5.3	−
E	○	入間市	35,200	11.1	−
F		飯能市	10,200	3.4	5,900
G	○	所沢市	18,100	6.0	18,900
H	○	横瀬町	15,500	5.2	−
I		日高市	11,800	3.9	3,300
J	○	深谷市	25,800	8.6	2,400
K		横瀬町	35,900	11.9	−
L		〃	4,500	1.5	1,000
M		〃	4,300	1.3	−
N		所沢市	12,300	4.1	7,200
O	○	長瀞町	35,800	11.9	−
P		所沢市	14,500	4.8	3,700
Q		飯能市	9,500	3.2	3,700
R	○	秩父市	17,400	5.8	11,800
S		横瀬町	4,800	1.6	−
T	○	岡谷市	4,400	1.5	−
U		秩父市	5,100	1.7	3,500
V		飯能市	小作料	8.0	4,000
計			356,000	125.8	107,700

注 ○印は棚田学校の卒業生
中島峰広作成(オーナー会資料による)

表3 農機具の所有台数と使用料

農機具	所有台数	使用料(円)
耕耘機	4	100
田植機	1	200
バインダー	2	200
ハーベスター	1	200
草刈機	3	50
カッター	1	200
籾摺機	1	150

注 使用料は10分毎の料金
中島峰広作成(オーナー会資料による)

オーナー小屋。農機具などが保管されている

農機具を駆使した農作業

平均的には100㎡の面積で体験的な農作業を行う他の地域のオーナー制と異なり、ここでは耕作する面積が大きく、半分が5アール以上、10アールを超えるオーナーが4組もいる。これだけの面積になると人力だけでは無理で、農機具を使用するようになる。表3は会が所有する農機具類と使用料が示されている。表2に示す農機具代の(使用料の)合計は約11万円、年間の燃料費を賄える金額だという。農機具代を支払っていないオーナーは自前の農機具を所有していると考えてよいそうだ。

右：何台もの農作業機械が並ぶ／左：作業日誌。機械の使用時間を自己申告する

有機的に結合した4つの取り組み

2012年6月に、それまで別々の団体であった中山間地域直接支払、寺坂棚田学校、寺坂棚田オーナー会、寺坂ふれあい農園が横瀬町寺坂棚田保存会として一つに統合された。4つの団体はこれまでも密接な関係を持っていたが、これにより一層関係が強化され、有機的な結合になるものと考えられる。

まず、中山間地域直接支払は集落協定で助成金の30％を地権者に渡し、残り70％を集落で留保、オーナーが使用する農機具類を購入してきた。

寺坂棚田学校は面積27アール、4枚の棚田を利用して会費1万円で農業体験をさせるものであり、作業への出席状況に応じて収穫物が分配される。特色があるのは体験メニューの多様さである。学校の年間計画をみると、施肥・畦シート張り・荒掻き、代掻き・畦草刈り（1回目）、田植え、田草取り（1回目）・畦草刈り（2回目）、田草取り（2回目）・山側水路掘り、土用干し・水きり・田草取り（3回目）・畦草刈り（3回目）・支柱立て、防鳥ネット張り、稲刈り・はさ掛け・ネット撤去、脱穀・籾摺りなどが列挙されている。これらは通常の農作業のすべてであり、生徒はここで地元民の指導を受けて学習し、一人立ちしてオーナーになる仕組みになっている。表2をみると、オーナーの半数が学校の卒業生であるのはこのためである。

寺坂ふれあい農園は転作田を利用して1区画20㎡、料金2千円で貸し出すもので、20区画が用意されている。オーナーや学校の生徒が棚田の作業に来た時、畑仕事も行い農作業の充足感を高める役割を果たしている。

このように、寺坂ではそれぞれの活動が棚田オーナーの育成を図るために機能している。今後は横瀬町寺坂棚田保存会の結成により、その機能は一層高められ、究極の棚田オーナー制の発展に寄与するものと考えられる。

お問い合わせ

■寺坂棚田学校　埼玉県秩父郡横瀬町横瀬1896-5
TEL. 0494-24-2388

■横瀬町振興課　TEL. 0494-25-0114

横瀬町寺坂棚田保存会の会長、町田修一さん

棚田の四季

写真・文　梅野 秀和

上：福岡県八女市黒木町大渕棚田　下：福岡県八女市星野村広内棚田

燃える畦

棚田の田んぼの畦は9月、秋分の日近くになると赤々といたるところに彼岸花が咲き乱れ、里に秋の訪れを告げます。

畦を壊すモグラから田を守るため、また、飢饉の時の非常食として、先人たちが植えたという彼岸花は別名を曼珠沙華。原産は中国揚子江流域で稲作の技術とともに日本に渡ってきたそうで、鮮やかな花が私たちを楽しませてくれるだけでなく、暮らしにも密着してきた花でもあります。

九州地方の棚田の畦は、法面を石で積んだ「石積み」の棚田が多いのですが、黒木町の大渕棚田は土でかためた「土披」という造りで、畦の斜面一面にびっしりと彼岸花が咲き、赤い帯のようになっています。

Profile

梅野 秀和
うめの ひでかず

1947年、佐賀県生まれ。写真は独学、主に写真雑誌やコンテストで学ぶ。1990年頃から風景写真を本格的に撮り始める。1994年、月刊誌『日本カメラ』で年度賞受賞。1998、2004、2007、2008、2009年視点入選。2002、2003年二科展入選。2005、2006年JPS展入選。

● **写真集**　「九州花百景」「九州花百景Ⅱ」「棚田～田んぼの四季～」(ほおずき書籍)、「九州の一本桜」(梓書院)、「だんだん田んぼの詩」(櫂歌書房)ほか。

奥羽山脈、甑岳のふもとさ根っこはって棚田を守る田んぼボーイズだべ!!

上：棚田全景／下左：みんなで環境保全（ひまわり定植）／下中・右：田んぼボーイズ

山形県村山市中沢棚田

はぁろぉ～!!（Hello）　中沢棚田の田んぼボ～イズだべ!!　今回は、おらだの大好きな中沢棚田ば　みんなにお知らせすっだぐって苦手なお手紙ば書がせてもらうなぁ～。ちぇっと読み難いがもすんね。おらだの事話すのに、おらだの言葉んねどでないとしゃべらんねがら、つぎあってけろなぁ～。

山形県は村山市。東北の背骨、奥羽山脈。そごの西側に甑岳っつう山があるんだべ。おらだ中沢村民２００人、その甑岳のふもとさ根っこはって生きてきた。そのうちの80％がじっちゃんとばっちゃんだ。かんじょしたら山ザルのほうがうがいべ、っつうあんばいだべ。ほんで、じっちゃんだちとばっちゃんだちがおぼこの頃から鋤鍬ど一緒に炙られる程の日差しば背中さしょって、えっちらぁおっちらぁ歩いで登った峠が、背炙り峠。その背炙り峠ってどごさあんのが、この中沢棚田。田んぼは普通1枚2枚ってかんじょすんだ。町の平野部の田んぼは1枚からおよそ６００キロ収穫出来っげんとも、おらだの所は１２０キロしか収穫出来ねぇ小さな田んぼの集まりだ。

毎年雪が溶けると若者たちは村を次々離れていった。残ったおらだは寂しがったよぉ～。農家の息子さ生まっだおらだは農家継がんなね。本当は田んぼなきゃいがった・・・・って思ってだっけごともあっけ。

おらだ若手のホープって呼ばれ続けて気が付けば60歳。もちろん今でも若手だよっっ。一時はなりたくない職業ってもいわれてだっけげんと、地道に田んぼば守り続けでいたら「山形の棚田20選」さ選ばれだのよ。嬉しいっけぇ。なんだが誇らしい気持ちになったぁ。みんなに見に来てもらいだいなぁ～。

東北の山村っていえば豪雪ってすぐわがっべ。んだなぁ～、毎年

3メートル以上の雪積もるんだよぉ。森の熊さんと一緒でじぃ～っと雪消えんのを待ってらんなねんだぁ。それだけに、忍耐力にはすこおしだけどげんど自信あるのよぉ。

春来てけんのは遅いんだべぇ。首ば長～ぐして待ってだっけ春。雪解け水の音、一斉に咲き出す花達、白鳥の声。これらの音や彩ば合図さして棚田の一年が始まんだべ。頭上の甑岳から流れで来る水は、夏でも冷ったい雪解け清水だ。その清水が田んぼば潤してけんだ。ありがたいなぁ～って、いっつも拝んでる。

甑岳がもたらしてけんのは水だけじゃねぇべぇ。春にはふだふだっていう山菜。これがまたうんまい！

雪が深いがら、どの山菜も柔らかなのよぉ。わらび、あいこ、こごみ、きのめ、ぜんまい、こしあぶら・・・・。秋には山盛りのきのこちゃん。豊かな山の恵みだべぇ。宝の山だ。おらだはそれば分けてもらってるのよぉ。それをさらにみんなに味わってもらいだぐって、秋には「なめこ祭り」ば開催してんだぁ～。

この「なめこ祭り」では、山がら採ってきたきのこを使った味噌汁と収穫したばかりのおらだの米ば振る舞ってんだ。分かり難い場所だげんど、毎年人口と同じ２００人ぐらいの人達が遊びに来てけんだぁ。おらだが振る舞ったのをみんなが「おいしい！おいしい！」ちゅうて食べでける。いつもおらだが吸ってる空気も「おいしい！おいしい！！」ちゅうて喜んでける。よそから来てけだみんなが喜んで笑顔になってるのを見っど、棚田を守る気持ちにも気合が入ってくんだぁ。

いいどごだよぉ～。秋の棚田に響き渡る田んぼボ～イズの勇壮な声を聞きに来てけらっしゃい～。

此の度は私たちの難易度の高い言葉で文を綴らせていただきましたが、最後までお付き合いありがとうございました。お会いできる日を中沢棚田でお待ちしております。

中沢棚田保全会
田んぼボーイズ代表　鈴木忠司

■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 JR奥羽本線村山駅下車、徒歩50分

【自　動　車】 山形自動車道東根ICを降り、国道13号線を北へ。村山駅の北を通る県道25号線との交差点で右折。約600メートル進んだ所で左折して県道120号（羽州街道）に入る。二つ目の信号を右折して県道29号に入り北進。インターから30分程度

■ お問い合わせ

中沢棚田保全会
田んぼボーイズ　代表・鈴木忠司
TEL&FAX：0237-55-4896

左：森の中のみんなのなめこ／中：みんなで稲刈り・稲杭掛け／右：代表と稲子

《田んぼに入る絵描き》の

棚田見聞録

絵・文　酒井 英次

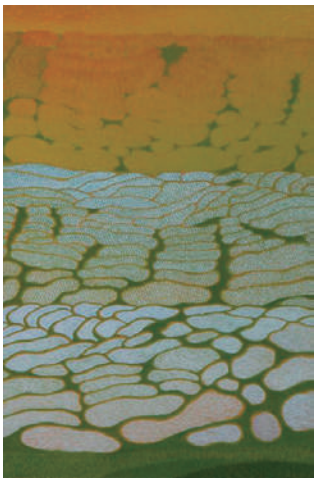
静岡・菊川市上倉沢の千框（せんがまち）です。毎年の棚田サミット参加時に、サミットだけではもったいない（？）ので周辺の棚田も廻ることにしています。２０１０年は静岡の松崎町サミットでした。近くに良い所がないかと以前の『棚田に吹く風』を見直して、中島先生の千框訪問記を見つけました。金谷駅から歩いて行けることも魅力で、旧東海道の石畳や武田氏の築いた戦国の城跡など興味深い所もあります。茶畑の丘を上倉沢へ約４ｋｍです。

上倉沢の集落から沢の右手の林道を上ります。下側は畝町直しをした広い田が続き、やがて道の左に畳一枚から１／２程の田が鱗状に見えてきます。これが往時の形で今に残る千框です。以来、次の年の春、秋に訪れましたが、行く毎に復田が進み、沢の左岸は上の水神様の所まで達しました。保存会や、サポートしている市民、学生、皆さんの努力が稔りつつあります。

絵の方は、いつもの横長での表現でなく、三分割した田を縦に並べて、下段を代掻きまでの田、中段を田植え後、上段を稔りの田としました。（Ⅰ）と（Ⅱ）は同じ田の上と下を入れ替えたもの。

往年の小さな田が、これほど多く良く残っている所は少ないと思います。どうぞ見て下さい。

千框　春秋図（Ⅰ）、（Ⅱ）
（各 91cm×61cm、2012 年 3 月作）



棚田のとっておき

棚カフェレシピ

Vol.3

棚田地域で
手に入れた食材に、
ちょっと手を加えて…。
創作料理の完成♪

いよいよ収穫の季節。去年秋に講演させて頂いた熊本県菊池市で見つけた食材「きくち古代米」。菊池の棚田で大切に育てられた黒米、赤米、緑米、発芽玄米の四穀が入っています。白米に少量入れて炊くと色も鮮やか、食感もプチプチとして楽しめます。

今回はお彼岸が近いということで「おはぎ」を作ってみました。もち米に「きくち古代米」を入れて圧力鍋でふっくらと炊き上げます。あんこで包んだもの、あんこを包んだもの、更にそれにきなこをまぶしたものの三種のおはぎにお抹茶を添えて。

春は「ぼたもち」、秋は「おはぎ」と呼ばれます。「棚からぼたもち」ならぬ「棚田からおはぎ」です。

今年10月には熊本県山都町で棚田サミットが開催されます！ぜひ菊池の棚田にもお寄りくださいね。

きくち古代米の三種おはぎ

熊本県菊池市の地元食材使用

■材料：きくち古代米・もち米・あんこ・きなこ。飾りにクコの実、松の実、カボチャの種など

レシピ紹介
（写真・文）
棚田むすびの会
扇田久美子

棚田博士は今日もイク！

中島峰広の全国棚田行脚

集落営農に支えられる棚田

長野県小谷村伊折

長野県小谷（おたり）村は県の北西端、北アルプスの主峰の一つ、白馬岳（2・932メートル）の山麓にある。伊折は、村の南部、ＪＲ大糸線南小谷駅から1・5キロの距離にあり、姫川の左岸、標高580～600メートルに位置している戸数10戸の小さな集落である。

小谷村伊折を知ったのは、棚田学会の会員、農政ジャーナリストの吉田忠文さんの教示によるもの。吉田さんは伊折の隣の集落、柳瀬にセカンドハウスを持ち、小谷で一時期奥様と一緒に暮らしたことがあり、奥さんを亡くされてからも時々訪れている。それゆえ村内に知人が多く、彼らから得た情報の一つ、耕作放棄された棚田を活用、集落営農で元気をだしている集落、伊折のことを教えてもらった。

百名山に名を連ねる山々 ダイナミックな景観の出迎え

2012年5月下旬、小谷村伊折を昨年に続き再訪した。新宿駅と南小谷駅を直通で結ぶあずさ3号に乗車、小谷村へ向かう。そのルートは、甲府盆地から先は日本の地質構造を二分する大地溝帯に沿うだけに、景観はダイナミックであり、百名山に名を連ねる山々を見ての旅になる。まず、目を見張るのが甲府盆地の入口、勝沼からの盆地を一望する景観、日本三大車窓に入れたい風景である。韮崎に近づくと、進行方向左側に現れるのが南アルプスの北端を占める鳳凰三山と甲斐駒ケ岳、ことに甲斐駒ケ岳の屹立する峻険な山容には圧倒される。右側に目を移すと、八ヶ岳連峰の山並みが対峙している。

諏訪湖を左手に見て、塩尻峠を塩嶺トンネルで抜けると松本盆地である。目の前には北アルプスの山々、松本付近では常念岳がひときわ目立ち、安曇野を北上するに伴い、百名山ではないが、北アルプスの前衛、有明山が存在感を示すようになる。大町で安曇野と別れ、木崎湖、青木湖を見ながら北上、分水嶺を越えて白馬盆地に入る。左手に連なる斑に雪が残る鹿島槍ヶ岳、五竜岳、白馬三山などに迎えられ、南小谷駅に到着する。

中島（なかしま） 峰広（みねひろ）（棚田博士）

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO法人棚田ネットワーク代表。全国棚田（千枚田）連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田―保全への取組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』（以上、古今書院）。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。

駅には、吉田さんに紹介された伊折で集落営農の会計を務め、村議でもある高橋正宏さんが出迎えていた。駅から国道148号を白馬に向かって進み、すぐに左折、踏切を渡り、戻るようにしてもう一度左折、村道の坂を50メートルほど上れば、伊折の集落が見えてくる。

伊折農業生産組合を立ち上げ耕作放棄地の復田に乗り出す

高橋さんは60歳、58歳の奥さんと二人暮らし。大学卒業後、地元の大手ゼネコン北野建設に入社、東京で勤務したが、30歳の時父親が亡なくなったので松本支店への転勤を申し出て許された。その時から、リュウマチを患っていた母親の介護のため週末実家に戻る生活が始まった。51歳の時、母親の最後を看取るため早期退職し単身で帰郷、2年間の介護の後、母親を亡くした。しかし、林業士の資格を取るため学校に通ったりして、すぐには就農しなかったので、教師をしていた父親にかわり母親と祖母が守ってきた30アールの水田は放棄された状態であった。

55歳の時、松本で精神保健の仕事をしていた奥さんが小谷に来て、生活が安定、放棄された棚田を復田し、5枚、6アールを耕耘機で耕作するようになった。一昨年には農業を止めた人から中古の歩行型2条田植機・バインダー・脱穀機を一括して購入、ようやく農家らしくなり、また地区の人に押されて村会議員にもなった。

高橋さんに集落営農立ち上げの推進役になった藤原信夫さんを紹介された。あらゆる仕事をこなす百姓の風格を持ち、話し方に人を説得する力があり、集落を引っ張って行く気概が感じられた。

集落はかつて23戸あったが現在は10戸。家屋は16戸あるが、そのうちの3戸は集落外の人が利用するセカンドハウス、3戸が空家である。人口は21名、そのうち65歳未満は高橋夫妻、藤原さんの息子夫婦と孫たち、それと40代の男性が1人、合計7名。残りは65歳以上の高齢者で、3戸が独居世帯である。これからわかるように伊折は典型的な小規模高齢者集落である。

このように過疎・高齢化が進む集落では10年ほど前から一段と耕作放棄が進み、集落の荒廃が顕在化してきた。2003年、この現状を座視することができなかった藤原さんは高橋さんを誘い2人で伊折農業生産組合を立ち上げ、放棄地の復田に乗り出した。放棄されていた水田30アールを無償で借り受け、重機の操作に長けていた藤原さんが復田した。これをソバ畑として利用、行政が播種と収穫を引き受けてくれたので、組合では草刈をして管理するだけでよく、しかも収穫物は農協が買い取ってくれた。

2004年には、さらに2戸の夫婦が参加、新たに復田したところに、使用しなくなった器材を農協から譲り受けビニールハウスを建て、ミニトマトの栽培を始めた。そして、2005年集落の全戸が生産組合に参加し、集落営農とよばれる体制が整ったのである。体制の整備は、藤原さんが先頭に立って引っ張り、会計を含めた事務的なことをすべて高橋さんがフォローするという絶妙のコンビによって進められた。また、県の農業改良普及所職員の助言もありがたかったという。

上：伊折交流ハウス
下：北アルプスを望むオーナー田

それぞれが得意な部門を担う棚田を守るための集落営農

2012年現在、営農組合は全戸が参加、組合員数15名、資産はなく、放棄地を活用することで事業を展開しており、営業を藤原さん、会

計を高橋さんが担当している。事業は7部門にわかれ、それぞれに責任者が決められ、自覚を持って経営に当たることが課せられている。水稲・育苗・ミニトマト部門は60アールでアキタコマチの栽培を行い、2棟のビニールハウスを利用して農協から受託した1400箱の育苗とそのあと地でミニトマトを栽培し、箱詰めにして出荷している。また、現在は廃材となった杉山集落の離村した農家から6千円の小作料で借りた棚田10枚、25アールを利用して実施されているオーナー制の水田管理を引き受けている。オーナー制は2006年に始まり、面積100㎡で会費2万5千円、収穫量のすべてを持ち帰ることができ、田植・草刈・稲刈・脱穀の農業体験をメニューとするもの。2012年のオーナー数は18組であった。ソバ・ムギ部門は40アールで表作ムギ、裏作ソバを栽培しているが、裏作であるソバの収入が多いそうだ。その他に、小面積であるが花・マコモタケ部門、野菜部門、雪中カンラン部門、山菜直売部門などがある。これらの年間売上高は200～250万円になるという。

組合員は、それぞれが得意な部門で活動し、労働に対しては時給800円、組合員所有の機械類使用については燃料代を組合が持ち、トラクター300～500円、草刈機200円がそれぞれ時給として支払われる。集落では毎月、月末に集金日が設けられており、各戸から集落費3千円が徴収されるが、一方組合からは活動による収益のほか中山間地等直接支払分の120万円が加えられ、各人の労働時間の申告に基づき報酬が支給されている。これにより、毎月数万円を手にすることができるお年寄りは励みになるといって喜んでおり、集落の結束力が強まったという。ここでは、大きな収入を得るためではなく、耕作放棄地を少なくして集落の荒廃化を防ぎ、棚田を守るために集落営農が行われているのである。

上：出荷作業／下：豪雪地帯の農家

伊折の棚田を支える高橋正宏さん（左）と藤原信夫さん

伊折の棚田へのアクセス

【公共交通】JR大糸線/南小谷下車1.5km/徒歩約30分

【車利用】 国道148号線（糸魚川街道）南小谷駅前交差点より1.5km約5分

会員の声

関西を中心に活動する棚田むすびの会に参加

兵庫県伊丹市　林 康裕

はじめまして。棚田むすびの会会員の林康裕です。私が棚田の活動を始めたのは棚田むすびの会に参加したことがきっかけでした。棚田むすびの会は関西を中心に活動している棚田保全団体です。といってもそんな堅苦しいものではなく、棚田や自然が好きな仲間が集まっていろんなイベントをしています。最大の特徴は会長をはじめ会員170名の7割が女性ということ。テーマはフェミニンな活動ということで、女性ならではの感性と視点で活動をしています。もちろん男性もいますが、みなさん棚田でご縁があったのでどこかしら似ている優しい雰囲気の団体です。

主な活動場所は滋賀県仰木の棚田です。こちらの棚田は昆虫写真家・今森光彦の「里山物語」で有名な馬蹄形の棚田があります。素晴らしい景観で毎回訪れるのを楽しみにしています。こちらでの作業は平尾 里山・棚田守り人（もりびと）の会さんが運営をされておりまして毎回お世話になっております。毎回たくさんの方が集まり、楽しく作業ができるのも支えて頂いているボランティアの方のお陰です。本当にありがとうございます。その他の活動としては味噌作り、マコモ栽培、早乙女姿での田植え、コンバイン講習、農家民宿体験、関西での棚田フェスティバルの開催などなどさまざまな活動をしています。

私自身は今年で4年目の活動となるのですが、今でも覚えているのが初めて素足で田んぼに入ったときの心地よさです。誘われて軽い気持ちで参加したのですが、全身の細胞が呼吸をしているような心地よさでした。

今では棚田に行くことが自然なことになりました。最初は棚田ってなんだろう、田んぼと違うのか、あの段々になっているやつかな、といった感じでそこまで興味があったわけではありません。しかし棚田を訪れる度に感じた心地よさ、みんなで汗をかき収穫する達成感などを経験していく中で、棚田が生活の中でなくてはならない存在となってきました。そして棚田が荒廃している現状などを勉強するにつれて棚田に対する想いは強くなり、今では棚田を守ること＝地球を守ること＝人を守ることという図式が頭の中に浮かんでしまうくらい大切な想いを持つようになりました。そんな気付きを与えてくれた棚田むすびの会には本当に感謝をしております。

棚田ネット通信員の

地域発 棚田情報

棚田で〝更生〟

（7月5日付の信濃毎日新聞朝刊）

信濃毎日新聞報道部　山越 悌治

「田毎の月」で知られる、長野県千曲市の姨捨棚田で、非行歴がある17～19歳の少年少女6人が草取りをした、との記事が掲載されました。長野県警が昨年から取り組んでいる立ち直り支援の一環だそうです。少年少女は照り付ける日差しの中、あぜなどの雑草を手で抜いたり、刈ったり。ほとんどが6月に田植えも体験していたそうですが、カエルが跳ねる田んぼにはだしで入り、悪戦苦闘したそうです。

県内の通信制高校3年の少女が笑顔で「しんどいけれど、目標があるとやりがいになって楽しい」と話した、との記述に、棚田の〝多面的機能〟をあらためて感じさせられました。秋に収穫し、餅つきをして福祉施設で振る舞うそうです。

会員のひろば

会員の声募集！

「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください！ご要望、感想やご質問でもOK！（会員の声800字まで、会員レポート400字まで。写真も添えて）

〒一六〇－〇〇二三　東京都新宿区西新宿七－一八－一六
トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風　会員のひろば」宛
メールでも受付けています ⇩ hiroba@tanada.or.jp

棚田俳壇 ～第三回～

井上 久志（千葉県）

げんげ田にともに寝ころぶ鎌と鍬
それぞれに補植苗おく棚田かな
田草取り朝飯前と顎の皺
地の人の笑顔満点早苗饗酒

田入（たいりのえひと） 絵人（新潟市・酒井英次）

雨上り青き田越しに角田見え
棚田より凪の海から伊夜比方も
草刈りに先達の汗体感す
草刈りて先人の田次々に
一、二句 佐渡岩首の棚田から海峡越しに見た蒲原の角田山と弥彦山。三、四句 佐渡月布施の草刈り作業で。

永瀬 左岸（東京都）

南風止んで谷間の棚田みどり濃し
朝霧の棚田に遠き三山かな
トロ箱に植えし稲穂に野分かな
老農の笑みの眉開く黄金稲架

高木 宏明（東京都）

秋澄みて黄金の穂波いなご跳ぶ
はさがけの稲のしずくや秋すすむ
白飯の湯気のそよろに咳き込みて
月の夜やこうろぎ潜む藁ぼっち

俳句募集

編集部に郵送いただくか、メールにてどしどしご投稿ください！
>haiku@tanada.or.jp

編集部イチオシ! BOOK & MOVIE

BOOK

美術手帖7月号増刊 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2012 公式ガイドブック

著者監修:北川フラム／大地の芸術祭実行委員会
¥1,260
美術出版社
2012年6月

2000年からスタートした「大地の芸術祭」、トリエンナーレ（3年に1度）の里山アートイベントとして今年で5回目を迎えます。東京23区よりも広大な越後妻有（新潟県十日町市、津南町）で開催される現代アートの全作品紹介と解説、地元の美味しい食と温泉、宿泊、地図、交通案内や時刻表などが充実。さらに今回から新たに加わった100の公式ガイドツアーを全て網羅しているので、お気に入りのテーマツアーが探せます。

大地の芸術祭
開催中～9/17まで
www.echigo-tsumari.jp

MOVIE

モンサントの不自然な食べもの

2008年、フランス、カナダ、ドイツ　108分
監督：マリー＝モニク・ロバン／カナダ国立映画制作庁・アルテフランス共同製作
9月1日より渋谷アップリンク他全国順次公開。
上映情報は公式サイトをご覧下さい。
⇒ http://www.uplink.co.jp/monsanto/

私たちの食卓に知らないうちに入り込みつつある「不自然な食べ物＝遺伝子組み換え作物」。それはどこから来ているのだろう？ その市場の9割を支配する米モンサント社。世界の穀物市場に大きな影響力を持つこの多国籍企業の実態を描いたドキュメンタリーです。作中に登場する各国の深刻な状況は、TPP締結後の日本の姿かもしれません。これからを生きるために、知っておきたいことがたくさん詰まった作品です。

棚田ネットワークのかつどうノート

このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

新しい出会いを広げたい！ボランティア見本市

2012年7月14日 報告 氷見山 清子

7月14日(土)の環境ボランティア見本市に参加してきました。快晴で熱中症になりそうなぐらい暑い日でしたが、棚田を知らなかった人、現地で活動したい人、東京でもできる活動がないか探しに来ている人など、たくさんの方に来ていただきました。実際に棚田へ行ってみようという方にとって、今回のイベントがきっかけとなるとうれしいです。また当日は他の参加団体の方とも交流でき、国内外で行われている様々な活動を知ることができました。

写真提供：環境省関東地方環境事務所／環境パートナーシップオフィス

棚トレ2012 in 佐渡島
～みんなでつくる棚田合宿～

2012年7月14日～16日 報告 内田 千鶴

世界農業遺産にも登録された佐渡島で、今年も「棚トレ」が開催されました！ 満員御礼で始まったツアー1日目は、棚田番長と共に海を見下ろす岩首棚田を散策、2日目には月布施の棚田で草刈り・放鳥トキの餌場となる棚田ビオトープの整備を行い、3日目は小倉の千枚田を歩き、長谷寺を見学しました。今年は参加者の年齢層が下がったと、現地の方々にも大変喜ばれました(笑)。今後もさらに若い世代を巻き込んで、佐渡の棚田や環境の保全を応援していきたいと思います。

スタッフのつ・ぶ・や・き
＜輪番制＞

今回のつぶやき人
事務局
kamy

先日事務所の整理をしていたスタッフがビニール袋に入った白米を発見。どうやら頂きものの米らしくメモが入っていました。7年前の2005年度産でカビによるものか変色していて即処分しました。そこで今回はダンシャリについて取り上げてみました。

新たな整理整頓の手法をダンシャリという？ そうではありません。ダンシャリは、モノへの執着心を捨てることが最大のコンセプトで、不用なモノを捨てて身の周りをきれいにし、古いしがらみから解放され身も心もスッキリする。これがダンシャリだといわれています。

使わないモノを手放すことで、真に必要で価値のあるモノが鮮明に浮かび上がってきます。同時に空いた所に新たな価値創造のスペースが生れてくるような気がします。

ダンシャリ派に対し『もったいない派』は、モノを大切にすることと倹約を美徳としています。古いモノへの愛着心を大切にするあまり過去の思い出に浸りながらの生活になりがちです。一方ではあまり不満をもらさず辛抱強い民衆像として、為政者に好まれて来たともいわれています。

経済アナリストの森永卓郎氏は「ダンシャリはリスク」と指摘しています。先の大震災のとき品物不足のパニックに巻き込まれ、買い物の行列に真っ先に加わったのがダンシャリ派、「やっぱり無駄と思っても一定の備蓄が必要だ」と述べています。ダンシャリは単に狭い居住空間からの発想なのか？ 多くの発明家の生活に代表されるようにガラクタの中にこそ創造性が宿るという説もあったりして、ダンシャリを巡る論議は興味深いものがあります。

栃木県茂木町
茂木プロジェクト

岩ノ作棚田の稲は順調に成長しています

岩ノ作体験田

オニユリ

5月に田植えした岩の作棚田の稲は、梅雨明け後の強い日差しを浴びながら、力強い成長を続けています。田植えの時には心もとなく感じた１本植え、２本植えの稲株も、今ではそれがどの列だったか、ほとんど見分けがつかないほどになりました。空にはオニヤンマが悠々と飛び、水辺ではイトトンボたちが可憐に舞っています。あぜ道の脇では、ヤブカンゾウ、ヤマユリ、オニユリなどの夏の花が美を競っています山際では、カワラナデシコの可憐な花が風にゆれていました。あの「なでしこジャパン」ゆかりの花です。

稲の生長ぶりからみると、９月中旬には稲刈りの時期を迎えそうです。また岩の作棚田でお会いしましょう。

（安井　一臣）

岐阜県恵那市
棚田ビオトープ プロジェクト

子どもビオトープ観察会

坂折棚田にある棚田ビオトープにて「夏休み・子どもビオトープ観察会」を８月４日（土）9:30から中野方町公民館活動の一環として開催しました。参加者は幼稚園生・小学生の合計７名とその保護者。まずは、なごみの家でプロジェクターを使用して棚田の生きもの、特にカエル類について説明しました。昨年は子供から「話しが長い」と指摘されたので、あっさりと終了し、早速生物採集へ。子供たちは棚田ビオトープだけではなく、棚田ビオトープのすぐ下の坂折川でも魚取りを開始、カワムツを取っていました。棚田ビオトープでは、トノサマガエル（大きな固体も）、ツチガエル、ヤマアカガエル（幼体）、サワガニ、ミヤマアカネ、バッタ類を採取、参加者みんなでどのような生物を採取したか振り返りをしました。終わりに森林総合研究所森林農地整備センターの川口さんの田んぼについてのお話をみんなで聞きました。暑い日でしたので10:30終了。

（相田　明）

静岡県松崎町
昔ながらの米づくりプロジェクト

田んぼの『草刈り・草取り』

畦の草を刈っていきます

棚田がくっきりと浮かび上がりました

伊豆半島は夏真っ盛り！海から吹き上げる爽やかな風に吹かれて、棚田の稲たちもグングン育っています。でもこの時期、一緒になって育つのが、畦の雑草…。ほっとくとカメムシなどの繁殖で、稲を痛めてしまいます。畦の草刈りは、棚田にとって大切な作業。でも人気ないんですね（笑）。7/7・8日に企画した草刈りイベントは、残念ながら催行人数に達せず、イベントとしては中止になりました。当日はスタッフ2人とボランティア3人でさっぱりと五分刈りな感じにしてきました！8/25、26日には2回目の草刈りと田の草取り。そして10月初旬いよいよ稲刈りです。

（高桑　智雄）

第18回 全国棚田（千枚田）サミット

子どもたちへ残そう地域の宝

～地域が育み続ける棚田の文化と景観～

棚田の応援団 わたしたちと〝棚田の応援団〟やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい！」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい“棚田”をどのように保全していくことができるのでしょう？ 一緒に考えませんか？ ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう！

会員になると！

会報誌「棚田に吹く風」（年6回）やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト（イベント）への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員

維持会員	1口1万円（1口以上）
一般会員	3,000円
学生会員	2,000円

法人会員を募集しています！

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員
1口３万円（1口以上）

この上のスペース（ページ上1/2サイズ）は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。（詳細はお問い合わせください）

編集部から

右側の「HPのここを見て！」でも紹介していますが、この度棚田ネットワークの公式facebookページが出来ました。今回、新たに棚田ネットワーク事務局のボランティアスタッフになった新人さん（なんと、25歳！）の提案で、しかも初仕事として制作まであっという間に行ってくれました。若い世代のITポテンシャルには驚きです！

facebookの日本のユーザーは、比較的年齢層が高く、棚田好きの世代もたくさんいます。また、HPやブログより気軽に発信できるツールなので、棚田のコミュニティーとして積極的に活用していきたいと思います。会員さんの中で、アカウントを持っていて、棚田情報を発信したいという方、現在ユーザーからの投稿もできますので、ぜひご利用ください！

ホームページのここを見て！

棚田ネットワークの公式facebookページが出来ました！

みなさん「いいね！」押してください。

www.facebook.com/tanadanetwork

棚田に吹く風
2012年9月号 Vol.84

発行 NPO法人 棚田ネットワーク
〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail：info@tanada.or.jp URL：www.tanada.or.jp
郵便振替口座：00100-7-151565

［今月の表紙］ トキの餌場・ビオトープの草刈り／棚トレ2012 in 佐渡島にて